

ここで途切れさせない。 畑も、技術も、想いも。

すとう農園 代表 須藤龍太郎 Suto Ryutaro



関本地区で祖父母が守ってきた梨畑を、須藤さんは自動車整備士の仕事を辞めて継いでいます。両親は農業をしていないため、祖父母が引退すれば、この畑はそこで終わってしまう状況でした。「自分がやらなければ、梨づくりがなくなる」。その思いが、農家への転身を決めた理由です。須藤さんが目指すのは、続けられる梨づくり。枝をつなげて育てるジョイント栽培を取り入れ、同じ広さでも収量を増やし、作業の負担を減らしています。品種も見直し、気候変動に対応できる梨へと、少しずつ切り替えてきました。「産地は、人がいなければ守れない」と語る須藤さん。畑も、技術も、想いも、次の世代へ手渡すために。今日も梨畑に立ち、この土地の未来を、自分の手でつないでいこうとしています。

■ 須藤さんのおすそわけは、
就農したい人にアドバイスすることです。
連絡先は、LINE



LINE